

令和4年10月18日(火)
都市経営戦略会議

(仮称) さいたまスポーツシュール推進施設の 整備に向けた基本的な方向性について

スポーツ文化局 スポーツ部 スポーツ政策室

目次

1. 審議事項
2. 概論
3. さいたま市の取組
4. シューレ推進に向けた機能検討
5. 整備場所の検討
6. スポーツシューレ施設の目指すもの
7. 整備推進に向けた推進体制

1 審議事項

1. (仮称) さいたまスポーツシューレ推進施設の整備に係る基本的な方向性について
2. 整備場所を「県立衛生研究所跡地」とすることについて

2 概論 スポーツシュールについて

■ スポーツシュールとは

- グラウンドだけではなく、**クラブハウス**や**研修施設**、**宿泊施設**などを総合的に併せ持つ施設（ハード）を指す。
- 同一敷地内にこれらの機能が集約・整備されているのが一般的。



スポーツシュールのイメージ図

【事例】ドイツ ヴェーダウ・スポーツシュール (WEDA U SPORT SCHULE)

- 1978年開設（ドイツで最大・最古のスポーツシュール）
- 広さ約200ha
- **メインスタジアム、サッカー場、体育館、テニスコート、陸上グラウンド、カヌー・レガッタコース、ビーチバレーボールコート、宿泊施設、会議室、食堂などが集積**
- 選手強化・育成や普及だけでなく、**指導者の育成、クラブ運営に関わる人材の研修なども行う**
- ノルトライン・ヴェストファーレン州のスポーツ連盟、ドイツサッカー協会の地域本部など各種スポーツ団体の本部が置かれ、“**地域スポーツの拠点**”としての機能を果たしている



※令和元年(2019年)11月 市長視察

3 さいたま市の取組 ネットワーク型シュレの推進

■ さいたまスポーツシュレの基本方向

- 本市においては、スポーツ施設群の集約度・規模に優れた荒川左岸スポーツ施設群を中心とした、「**ネットワーク型スポーツシュレ**」を展開することとされた。
(平成29年11月都市経営戦略会議における承認事項)
- 市内に集積するスポーツ施設群を中心に、市内の宿泊・飲食・研修施設等のネットワーク化によって、**さいたま市全体を「ネットワーク型スポーツシュレ」とする**ことで、スポーツを「**する場**」、「**学ぶ場**」を確保。
- 併せて、企業・大学・団体等が持つ最新の知見や技術を活用した実証実験など、**新たなスポーツ産業の成長の場**とすることを目指している。



〔さいたまスポーツシュレの目的〕

スポーツ人材の育成

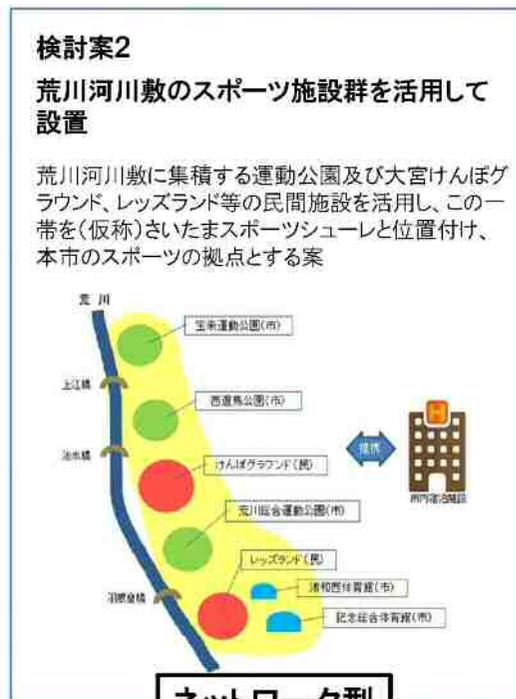
持続可能な
スポーツ環境の整備

スポーツビジネス・スポーツ産業
の創出・活性化

3 さいたま市の取組 ネットワーク型シュールの推進

■ ネットワーク型シュールの推進に向けて

- 「スポーツシュール連携協定」を8団体と締結（H30年度～）
- 実証プロジェクト等のソフト事業を先行して実施（H30年度～）



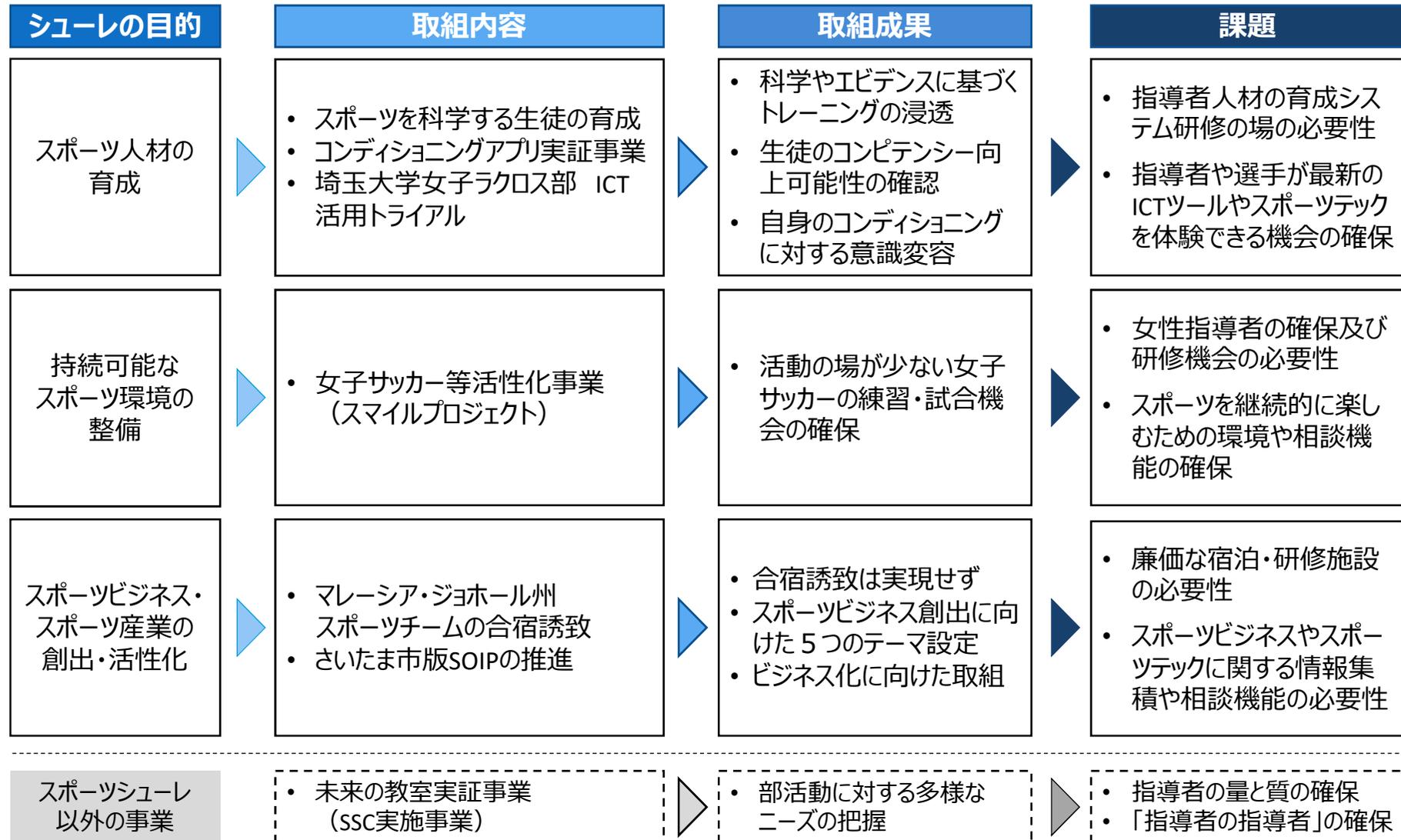
(出典) 平成29年度第10回（第278回）都市経営戦略会議資料



4 シューレ推進に向けた機能検討 これまでの取組と課題

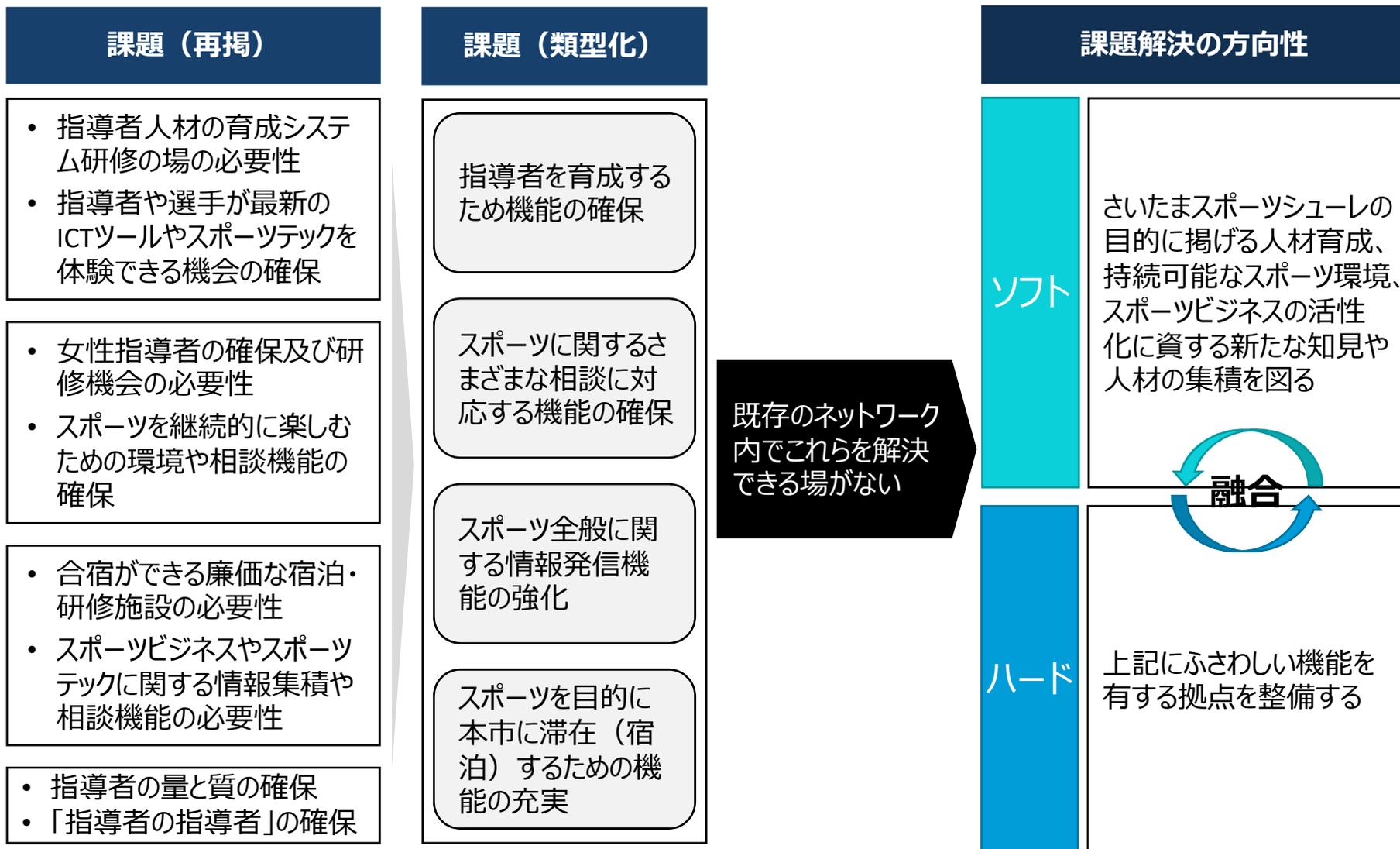
シューレの3つの目的に沿った取組を展開。

⇒これまでの取組を通じ、課題も明らかに。



4 シューレ推進に向けた機能検討 課題解決の方向性

さいたまスポーツシューレの目的を実現する上での課題を解決するためには、**ネットワークを補完・充実**させるための**機能（ソフト）**と**新たな施設（ハード）**を一体的に整える必要がある。



4 シューレ推進に向けた機能検討 推進施設の目的と提供機能

スポーツシューレ推進施設の目的

- 市民が生涯にわたってスポーツを楽しむことを支え、トップアスリート支えるための知の集積
- あらゆるスポーツの発展を支え、スポーツによる国内外の対流・交流を加速

スポーツシューレ推進施設の提供機能（基本的な方向性）

スポーツ人材の育成	■ 人材育成機能 <ul style="list-style-type: none">➢ スポーツを楽しみ、スポーツを通じた人間力向上をめざす地域指導者育成プログラムの開発と実施➢ 市民、選手、指導者の各層に対する育成メソッドの開発と展開➢ プロスポーツチームのノウハウや科学的知見の導入	■ 練習場・トレーニング機能 <ul style="list-style-type: none">➢ 選手や指導者の練習➢ さまざまなスポーツ競技を体験できる機会の提供➢ 子どもの体力づくりから高齢者の介護予防まで多彩なプログラムの提供
持続可能なスポーツ環境の整備	■ 情報集積機能 <ul style="list-style-type: none">➢ 「みる」「する」ためのスポーツ情報の収集➢ スポーツ大会の開催に必要な施設や関連情報を用いたコンシェルジュ➢ スポーツを楽しみ、学べるライブラリーの提供	■ 相談・支援機能 <ul style="list-style-type: none">➢ 生涯にわたってスポーツを続けるためのスポーツ医学、スポーツ栄養学等の専門家による相談・助言➢ 各種目のチーム、リーグづくりの支援➢ 児童・生徒に対する学業とスポーツの両立サポート
スポーツビジネス・スポーツ産業の創出・活性化	■ 研究・実証機能（スポーツテックラボ） <ul style="list-style-type: none">➢ 産学官によるスポーツテック等の研究・開発➢ 最新のデバイスやICTツール等を活用した運動パフォーマンスの実証フィールド➢ スポーツビジネスのインキュベーション・コラボレーションの拠点	■ 交流・宿泊機能 <ul style="list-style-type: none">➢ 海外・国内チームの合宿・キャンプ誘致の促進➢ 大型スポーツイベント時等の宿泊客の受入➢ 食からの健康を支え、スポーツを楽しむ市民やアスリートが交流できるカフェやダイニングスペース

5 整備場所の検討 スポーツシュレ推進施設の整備場所（案）

本施設の整備を検討するに当たり、令和2年度調査で整備候補地として抽出した
 ①埼玉大学、②レッズランド、③県立衛生研究所跡地の3か所について概況を整理

①埼玉大学



②レッズランド



③県立衛生研究所跡地



所在地	桜区下大久保255
敷地面積	約30万㎡（キャンパス全体）
用途地域	第二種中高層住居専用地域 （容積率200%、建蔽率60%）
その他 都市計画条件	高度地区15m 景観誘導区域（市街化区域）
現況利用状況	・研究・教育施設 ・各種運動施設（屋内・屋外）
土地所有	国立大学法人埼玉大学
主な施設整備 条件	・延床面積1,500㎡以下 ・宿泊施設の整備不可

所在地	桜区下大久保1771
敷地面積	148,500㎡
用途地域	市街化調整区域
その他 都市計画条件	なし
現況利用状況	・会員制スポーツ施設 （クラブハウス、グラウンド等）
土地所有	民地（クラブハウス） 国（グラウンド）
主な施設整備 条件	・原則として建物の整備は不可

所在地	桜区上大久保519
敷地面積	13,326㎡
用途地域	第1種住居地域 （容積率200%、建蔽率60%）
その他 都市計画条件	高度地区15m 景観誘導区域（市街化区域）
現況利用状況	未利用
土地所有	埼玉県
主な施設整備 条件	・延床面積3,000㎡以下

5 整備場所の検討 整備候補地の比較検討

各整備候補地について、特徴、施設整備により期待される効果、整備する場合の課題を抽出

	①埼玉大学	②レッズランド	③県立衛生研究所跡地
特徴・期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教養、経済、教育、理、工の各学部を有する総合大学であり、幅広い分野において、スポーツと連携した教育や研究が期待できる。 ✓ 市とは、スポーツシュレの推進やイノベーション創出連携に関する覚書を締結している。 ✓ 屋内外の豊富なスポーツ施設を有しており、その活用が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 浦和レッズが、「Jリーグ百年構想」を具現化し、地域スポーツ文化を作り上げていくために整備した施設である。 ✓ ソフト面においても、サッカーに限らず、さまざまなスポーツの競技機会の提供やスクールなどを展開している。 ✓ 近隣の浦和西体育館とのネットワークを有している 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 用途地域上、他の2施設に比べ、整備できる施設の規模、用途が広い。 ✓ 埼玉大学、レッズランドからいずれも2km圏内にある未利用地であり、さいたまスポーツシュレにおいて、埼玉大学やレッズランドを補完する施設の整備が可能。 ✓ 最寄りのバス停から近く、一定の交通利便性もある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 現状、施設を建設できるだけの十分な用地の確保が困難。 ✓ 国立大学法人の管理地内につき、利活用に向けた調整には、相応の期間が必要。 ✓ 用途地域上、宿泊施設の整備が困難なほか、事務所や利便施設の整備面積が限られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ クラブハウスは市街化調整区域に立地し、原則として、建物の整備が認められないため、ソフト面の充実により対応する必要がある。 ✓ フィールド部分も、河川地域（堤外地）に整備されており、これ以上の拡張は困難。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 現状、県有地であるため、施設を整備する場合は、土地の借受又は取得が必要。 ✓ 敷地形状が不整形であるため、建物等の配置に一定の制限がある。

5 整備場所の検討 整備候補地の選定

【検討結果】

- 検討候補地 3 か所の中で、唯一、整備すべき機能を用途地域上の制約なく整備できる。 ⇒【自由】
- 埼玉大学、レッズランド、サイデン化学アリーナ、与野八王子グラウンドなど荒川左岸に集積するスポーツ施設群から近く、これらの施設群の中核的拠点になりうる。かつ、桜区におけるシンボリックな施設となりうる。 ⇒【近い】
- 現状、更地であることから、スピーディな整備が可能である。 ⇒【はやい】



スポーツシュレ推進施設の整備場所は
「**県立衛生研究所跡地**」が**適当**と考えられる

6 スポーツシュール推進施設の目指すもの

スポーツのまち さいたまの実現

未来につなぐさいたまスポーツ文化の発展と継承

さいたまスポーツシュール推進施設

- 市民が生涯にわたってスポーツを楽しむことを支え、トップアスリート支えるための知の集積
 - あらゆるスポーツの発展を支え、スポーツによる国内外の対流・交流を加速

スポーツ人材の育成

- スポーツをすることが、生涯にわたりその人の人格的資産になるような指導ができる指導者人材のメソッド開発・育成拠点
- トップアスリートの育成メソッド開発拠点

持続可能なスポーツ環境の整備

- 子どもから高齢者まで市民が生涯にわたりスポーツを楽しむためのスポーツ科学・ヘルスケアの情報集積・体験拠点
- 女性アスリートを支える拠点

スポーツビジネス・スポーツ産業の創出・活性化

- 本市の新たなスポーツ文化の展開を促すようなスポーツビジネスの発展を促す研究開発拠点
- 国内外のスポーツチーム・団体の交流拠点

7 整備に向けた推進体制

スポーツシュレ推進施設の整備に当たっては、さいたま市・さいたまスポーツコミッション・浦和レッズ（レッズランド含む）の3者による推進体制を構築するものとする。

また、事業の進展を踏まえ、埼玉大学を推進体制に加えていくことも検討する。

● 一般社団法人さいたまスポーツコミッション(SSC)

- ✓ SSCは、さいたまスポーツシュレの開始時に、ネットワーク型スポーツシュレの推進母体（コンシェルジュ）として位置付けており、多くのソフト事業を手掛けた実績がある。
- ✓ 合宿・大会等の誘致の取組を進めており、ノウハウの蓄積がある。

● 浦和レッズ（一般社団法人レッズランド含む）

- ✓ 「Jリーグ百年構想」を体現すべく、サッカー以外にもさまざまな競技の振興を図るなど、スポーツを文化として育む取組を進めている。
- ✓ ソフト面では、レッズランドやレッズハートフルクラブにおいて、子どもたち等を対象にしたスクールやクリニックを展開し、スポーツの指導・育成に強力なノウハウがある
- ✓ ハード面では、総合スポーツランドとして、平成17年(2005年)にレッズランドを開設し、**スポーツシュレのフィールド部分を先取りした施設を整備している。**

